アルスくらしき

第37回倉敷音楽祭

倉敷管弦楽団 演奏会

3/21
2023

倉敷市民会館ホール
開場／14：00　開演／15：00

主催／倉敷市・倉敷市文化振興財団
協賛／公益財団法人JFE21世紀財団
共催／倉敷市教育委員会
後援／文化庁・岡山県・岡山県教育委員会

ごあいさつ

倉敷市長
伊 東 香 織

第37回倉敷音楽祭「倉敷管弦楽団演奏会」の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

倉敷の街並みに春を告げる倉敷音楽祭は、音楽が本市の個性ある文化としてより一層根付くよう、昭和62年から開催しております。倉敷管弦楽団におかれましては、瀬戸大橋博と同時開催となった第２回から演奏を御披露いただいており、長年にわたり、倉敷音楽祭の発展と本市の音楽文化の振興に多大な貢献をいただいておりますことに、深く敬意を表します。

今回の演奏会では、クラシック音楽をはじめ、作曲家の久石譲氏アレンジのジブリアニメの曲も演奏されると伺っており、大人から子どもまで、幅広い世代の皆様に楽しんでいただけるものと存じます。

４年ぶりの開催となる倉敷音楽祭に、倉敷管弦楽団の春らしく、華やかで軽快な演奏が響き渡ることを大変嬉しく思っております。

本日の演奏会の御成功と倉敷管弦楽団の今後ますますの御活躍・御発展をお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

倉敷管弦楽団 団長
菊 池　　東

本日は、４年ぶりに開催されます倉敷音楽祭にご来場頂きまして有難うございます。

コロナ禍の為、中断されていました楽団の演奏活動も徐々に再開できるようになり、昨年の８月には岡山シンフォニーホールで定期演奏会を開催することができました。

また、11月には新見市大佐町と岡山後楽園でコンサートが開催でき、やっと日常の活動に戻ることが出来たように感じています。

本日は、久々の音楽祭ということで趣向を凝らしたプログラムを企画し、クラシックファンをはじめ、小さなお子さんにも楽しめる演奏会となっています。

前半は馴染み易いクラシックの名曲を、後半は久石譲のジブリの映画音楽です。

クラシックの演奏会では滅多に聴けないアコーディオンやマンドリンに加え、倉敷にゆかりのある指揮者、ピアニストも交えて、盛沢山な内容の演奏会となっています。

それでは、どうぞ最後まで存分にお楽しみください。

プログラム

ドボルザーク／序曲「謝肉祭」Op. 92, B. 169

サン＝サーンス／交響詩「死の舞踏」Op. 40

リスト／交響詩「前奏曲」（レ・プレリュード）S.97

指　　揮 ： 菊池　　東

休　　憩

久石 譲　作曲
※濱野 正　編曲

「ハウルの動く城」より　オーケストラの為のシンフォニック・ヴァリエーション

「もののけ姫」より　“アシタカせっ記”※

「天空の城ラピュタ」より　“君をのせて”※

「風の谷のナウシカ」より　“ナウシカ・レクイエム”※

「千と千尋の神隠し」より　“あの夏へ”

交響組曲「魔女の宅急便」より

ピ　ア　ノ ： 渡部　乃亜
マンドリン ： 伊丹　典子
アコーディオン ： 檜山　　学
指　　揮 ： 浦　　優介

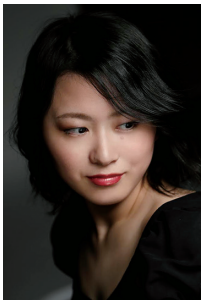
出演者プロフィール

指揮者／菊池　東
Kikuchi To

広島大学工学部醗酵工学科卒業。在学中、広島大学室内合奏団の指揮者としてクラブ活動を続ける傍ら、広島市民交響楽団（現広島交響楽団）の団員としてオーケストラ活動を始める。
卒業後東京都民交響楽団に入団しサブコンサートマスターを経験し‘73年帰岡。
帰岡後倉敷にもオーケストラをという要望に答え‘74年倉敷室内管弦楽団（現倉敷管弦楽団）を設立。以来現在まで47年にわたり同楽団の常任指揮者として、交響曲・管弦楽曲・協奏曲を中心に、バロック音楽から映画音楽・ミュージカル・オペラと幅広いレパートリーをもって各地で演奏会を開催している。
2006年と2010年にはブルガリアホールにおいて、ブルガリア国立ソフィアフィルハーモニーを指揮する機会を得、その模様はドキュメント番組「菊池東57歳の挑戦」として玉島テレビ・倉敷ケーブルテレビ等で放送された。
‘99年より倉敷音楽協会会長を務め、児童音楽コンクールを開催し、倉敷を中心として児童の音楽レベルの向上に寄与している。
‘06年秋には長年の文化活動が認められ、倉敷市文化章を受章している。

指揮者／浦　優介
Ura Yusuke

関西学院大学商学部を卒業後、くらしき作陽大学音楽学部にて指揮を学び、ウクライナへ留学。ウクライナ国立コトリャレフスキー記念ハルキウ芸術大学指揮科に在籍中だが、ウクライナ侵攻により帰国を余儀なくされる。
指揮を中井章徳、志賀保隆、髙谷光信、N.スーカッチ（チェルニーヒウフィル音楽監督）、Y.ジャチェンコ、ピアノを重川逸呼、金子葉子、I.デニセンコ、M.リンニク、M.ベブズ、ホルンを中西順、A.オブチャールの各氏に師事する。
2013～2016年　「おりなす八女音楽塾」指揮マスタークラスを修了し、大山平一郎氏の指導を受ける。
2016～2019年　ウクライナ国際指揮マスタークラスを修了する。修了演奏会に選抜されチェルニーヒウフィルハーモニー交響楽団と共演し、スラブ音楽奨励賞（2016年）、優秀指揮者賞（2019年）を受賞する。
2018～2019年　名古屋芸術大学主催の髙谷光信指揮マスタークラスを受講する。
2019年　ルーマニア国立ブカレスト国際音楽大学主催の国際指揮マスタークラスを修了し、Y.パヌラ氏、J.ワン氏の指導を受ける。
2021年　公益財団法人山田貞夫音楽財団指揮者オーディションにて、山田貞夫音楽賞及び特選を受賞する。受賞者演奏会にてセントラル愛知交響楽団を指揮する。
これまでにセントラル愛知交響楽団、岡山フィルハーモニック管弦楽団、瀬戸フィルハーモニー交響楽団をはじめ多くの演奏団体を指揮する。
また、市民オーケストラ・吹奏楽などで客演を重ねている。
現在、一般社団法人日本ウクライナ音楽協会理事。



ピアノ／渡部乃亜
Watanabe Noa

新潟市出身。くらしき作陽大学音楽学部音楽学科モスクワ音楽院特別演奏コースを首席で卒業。チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院研究科修了。ピアノを河本美和、石井朋子、菅又淑子、Y.スレサレフ、A.カマロフ、E.V.リヒテルの各氏に、伴奏法をA.アガジャーノフ氏に、室内楽を故V.スカナビ氏に、音楽理論を小西奈雅子氏に師事。
第３回V.K.メルジャーノフ記念国際コンクール（ブルガリア）においてプロコフィエフの最良演奏に対して特別賞受賞、第１回国際コンクールフェスティバル《音楽の色彩》（モスクワ）においてピアノ部門第１位受賞。
現在、新潟青陵大学短期大学部非常勤講師。

マンドリン／伊丹典子
Itami Noriko

３歳よりピアノ、15歳よりマンドリンを始める。マンドリンを粂井謙三、指揮法を新田孝に師事。1994年よりソリストとしてリサイタル・CDリリース等国内外で幅広く活動。多数のコンサート・音楽祭・大学授業演奏会・イベント等に招聘され特別出演し各方面で絶賛を博している。種々のクラシック楽器や声楽、邦楽と共演しマンドリンのクラシック楽器としての位置付けの確立・地位向上を図り、マンドリン音楽の普及発展をめざして、一般聴衆に向けた演奏を中心に演奏活動を行っている。
ミヒャエル･トレスター、荘村清志、福田進一、フローリアン・マイヤロット、プーリー・アナビアン等の国際的なアーティストと共演、中林淳眞と全国コンサートツアーなど活動が目覚しい。2013年9月、2015年8月にはロシアでの国際フェスティバルでモスクワ音楽院にて招聘演奏、好評を博した。日本ユニセフ協会後援チャリティコンサートなどを主催し、演奏活動を通しての社会福祉貢献にも意欲的に力を注いでいる。テレビ、ラジオにも多数出演。新聞雑誌など全国のマスコミにも多数紹介されている。
各地でマンドリンスクールを開催し、後進の指導育成にあたっている。現在はオンラインレッスンも取り入れ、広域にわたって指導を行っている。
文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業」＜派遣事業･音楽部門＞協力芸術家。日本マンドリン連盟会員。「伊丹典子マンドリンアカデミア」主宰。
公式サイト「伊丹典子のマンドリンの世界」http://noriko-mnd.com/

アコーディオン／檜山　学
Hiyama Manabu

幼い頃から父親の影響によりアコーディオンを始める。高校卒業後、イタリアとフランスにて約８年間の留学生活を送る。G.Fassetta, F.Deschamps, B.Perreyに師事。2003年に帰国し、東京を拠点に様々なライブパフォーマンスを展開する他、レコーディングや他ジャンルの様々なアーティストやダンサーとのコラボレーション、舞台音楽など精力的に活動している。また、イタリア、チリ、ロシア、スイス、韓国、香港など国外での演奏活動も行っている。
現在最もアグレッシブなプレイヤーの一人として国内外から熱い注目を浴びている。
2016年以降、世界最高峰であるCMA世界アコーディオン・コンクールにおいて日本代表の審査員を努めている。また後進の育成にも力を注いでいる。

倉敷管弦楽団 本日の出演者

1stヴァイオリン
佐藤真理子
荒木加英子
大西ちひろ
新谷　敏子
杉山　晃一
藤田　真理
丸山　博樹
三宅　郁子
森安　鋭子
柳井　典子
渡邉　陽子

2ndヴァイオリン
小林　佐知
上原　保美
奥山　晃子
串部　美幸
城野　崇彦
高谷麻理子
鳥越　悠斗
中川　雅美
中塚えりか
原田　洋輔
林　　寛子
平松　　綾
山口　拓也

ヴィオラ
松江　靖子
赤塚　佳代
飽浦　良和
岩瀬　裕子
片山佳央理
武本　克己
野田　卓也
安井　春香
吉田　典子

チェロ
松江　雄二
大西　智幸
栗木由美子
辻田　順子
平松　真弓
松本　圭子
松本　喜紹
宮原　勅治

コントラバス
糸島　早苗
小埜　七海
首藤　恵泉
野山　広正
本屋敷勝信

フルート
河村　香織
月本　裕子
*堺　　由美

オーボエ
羽井佐浩気
槙尾由利恵
吉田　容子

クラリネット
福島　恭子
安原　由美
西島　弥生
三木　一弘

ファゴット
浅野　絢子
*西牧　　岳
*西室　伸也

ホルン
相澤　弘明
岡田　璃生
澤田　秀実
土屋日奈子
吉市　幹雄
西崎　大修

トランペット
原田　宗範
山口　博子
山﨑　雄大

トロンボーン
樋口　　仁
松田英一郎
*大村昌治郎
**山﨑さくら

テューバ
浅野　尚行

ハープ
竹村　知子

打楽器
関　　暢子
長谷川清司
**徳田　　進
*井上　充隆
*宮内　奈美
*難波江理奈

運営スタッフ
山内　邦穂

*客演
**団友

曲目紹介

アントニン・ドボルザーク（1841-1904）／序曲「謝肉祭」Op.92，B.169

キリスト教では、復活祭（今年は４月９日）を迎える前の40日間、キリストの受難を分かち合う期間として食事を節制します。謝肉祭はこの期間の前に行われ、「ご馳走を食べて、羽目をはずして楽しもう」という祭りです。今は昔ほど節制はしないようですし、リオのサンバやヴェネチアの仮面仮装などの華やかな「カーニバル」が有名です。

この曲は、冒頭からお祭り騒ぎです。中間部は、喧騒から離れ、ドボルザークの故郷ボヘミアの自然に包まれます。そして再び祭りに戻ると、熱狂は最高潮に向かいます。

待ち望んだ音楽祭の１曲目に、はじける喜びを感じて頂ければと思います。

渡　邉　陽　子（ヴァイオリン）

楽器編成：フルート２、ピッコロ、オーボエ２、イングリッシュ・ホルン、クラリネット２、ファゴット２、ホルン４、トランペット２、トロンボーン３、テューバ、ティンパニ、タンブリン、シンバル、トライアングル、ハープ、弦五部

カミーユ・サン=サーンス（1835-1921）／交響詩「死の舞踏」Op.40

少し怖い題名のこの曲は、夜12時を打つハープの音で始まります。死神がヴァイオリンで不穏な調べを奏でると、ガイ骨たちが墓場から出てきて、フルートの旋律に合わせてワルツを踊り始めます。骨がコツコツかち合う音を木琴が鳴らし、踊りは次第に狂気を増していきますが、最高潮で突然音楽が止まり、オーボエによる鶏の鳴き声が響きます。夜明けの知らせにガイ骨たちは押し合いへし合い逃げ帰り、辺りは再び元の静けさに戻ります。不気味な中にもユーモラスなガイ骨たちのパーティナイトをのぞくような気持ちでお楽しみ頂けたら幸いです。

奥　山　晃　子（ヴァイオリン）

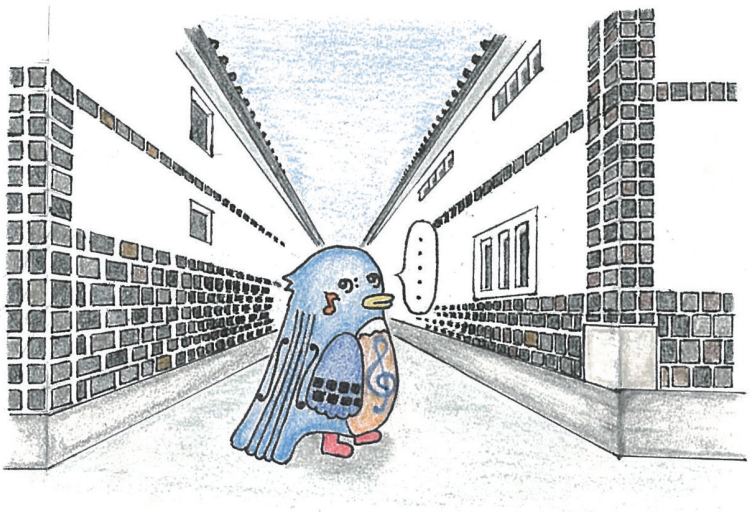
楽器編成：フルート２、ピッコロ、オーボエ２、クラリネット２、ファゴット２、ホルン４、トランペット２、トロンボーン３、テューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、スタンドシンバル、トライアングル、シロフォン、ハープ、独奏ヴァイオリン、弦五部

フランツ・リスト（1811-1886）／交響詩「前奏曲」（レ・プレリュード）S.97／R414

リストはハンガリー王国出身で、現在のドイツやオーストリアなどヨーロッパ各地で活動したピアニストであり作曲家です。管弦楽の分野におけるリストは、先ず『交響詩』というジャンルの創始者として知られています。本日演奏する『前奏曲』は1854年に作曲され、13曲あるリストの交響詩の代表作です。『人生は死への前奏曲』という考え（アルフォンス・ド・ラマルティーヌの詩による）に基づき、リストの人生観が歌い上げられています。

新　谷　敏　子（ヴァイオリン）

楽器編成：フルート３（３番はピッコロ持ち替え）、オーボエ２、クラリネット２、ファゴット２、ホルン４、トランペット２、トロンボーン３、テューバ、ティンパニ、小太鼓、大太鼓、シンバル、ハープ、弦五部



名前：くらっカン
種別：倉敷市の鳥、カワセミの新種
性格：人見知り、マイペース
　　（でも打ちとけるとすごく仲良くなる）
言語：岡山弁

その他、調査中
次回研究結果発表は７月９日の予定です。
お楽しみに！

「お客様へのお願い」
・携帯電話の電源をお切りください。
・撮影、録音はお断りいたします。